

# 短期予報解説資料 2026年1月5日15時40分発表

気象庁

## 1. 実況上の着目点

① 日本付近は冬型の気圧配置となっており、シーラインが日本海西部から北陸地方にのびている。500hPa 5280m付近のトラフが沿海州～朝鮮半島北部にあって-36°C以下の寒気を伴って東進している。北日本～東日本の日本海側を中心に3時間に5～10cmの降雪の所があり、シーライン近傍の北陸地方では雷を検知している。また、全国的に気圧の傾きが大きく、強い風が吹いている所があり、波が高い所がある。

② 低気圧が関東の東を東北東進。また、南西諸島付近は気圧の谷となっている。東シナ海では局地的に30mm/h前後の激しい雨を解析している所がある。



## 2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

① 日本付近は6日前半にかけて冬型の気圧配置が続く。日本海のシーラインはゆっくり南下し、5日夜までに不明瞭となる。1項①の500hPa トラフが6日にかけて北日本～東日本を通過するため、寒気の流入が強まり、日本海側を中心に大気の状態が非常に不安定となる所や降雪が強まる所がある。北日本～東日本では6日にかけて日本海側を中心に大雪や着雪、なだれ、落雷や突風、降ひょう、局地的には竜巻などの激しい突風に注意。6日後半は高気圧が本州付近に移動し、冬型の気圧配置は緩む。

② 1項②の低気圧は前線を伴い6日にかけて日本のはるか東に進む。前線に向かう下層暖湿気の影響で南西諸島と伊豆諸島では大気の状態が不安定となる所があるため、5日は落雷や突風、降ひょうに注意。

③ 500hPa 5220m付近のトラフが7日は中国東北区～沿海州付近に進む。トラフに対応する低気圧が6日夜までに日本海中部に発生し、7日は急速に発達しながら日本海北部を北東進。7日夜に寒冷前線が北日本～山陰付近に進む。低気圧や前線に向かう下層暖湿気と上空寒気の影響で大気の状態が非常に不安定となり、雷を伴いやや強い雨や、内陸部や山地では強い雪が降る所がある。北日本では大雪や着雪、なだれ、北日本～西日本では落雷や竜巻などの激しい突風、降ひょう、急な強い雨に注意。

④ 500hPa 5520m付近のトラフが7日は西日本～東日本を通過する。また日本の南と伊豆諸島付近に低気圧が発生して東よりに進む。トラフは-30°C前後の寒気を伴っており低気圧周辺を中心に大気の状態が非常に不安定となる所がある。西日本～東日本では落雷や竜巻などの激しい突風、降ひょうに注意。

⑤ ①～③の、冬型の気圧配置や低気圧及び前線の影響で、雪を伴ってやや強い風や強い風が吹き、波が高くしける所がある。特に北海道地方では、7日は非常に強い風が吹く所がある。北海道地方では7日は、風雪や高波に注意・警戒。全国的に7日にかけて、強風や風雪、高波に注意。

## 3. 数値予報資料解釈上の留意点

総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

## 4. 防災関連事項【量的予報等】

① 雨量(18時からの24時間)：多い所 (100mm以上) はない。

② 降雪量(18時からの24時間)：東北70、北海道・北陸40cm。

③ 波浪(明日まで)：東北・伊豆諸島・北陸 4、北海道・関東・近畿・中国・九州北部・沖縄3m。

④ 高潮(明日まで)：大潮の時期。北～西日本では、注意報基準を超過する所がある。

## 5. 全般気象情報発表の有無

発表の予定はない。